

あい しゆく 佐久甲州街道 間の宿 白田 瓦版

■ 佐久甲州街道は佐久地方で「佐久往還」と呼ばれ、江戸時代に中山道の脇往還として重要な道でした。信州岩村田から甲州韭崎まで道幅は狭い所で約2.3m、全長約16里(約64km)で繋がり、信州から伊勢講や富士講の修験行者、甲州・駿河から善光寺参りなどの信仰にかかわる旅人が行き交った。継送された荷物として佐久へは茶、綿、太物類(綿・麻織物)、煙草、塩、油、肴、砂糖、串柿、甲州・駿河へは穀物(雑穀)、紙、楮(こうぞ)、麻、苧(からむし)布、板木、下駄、生菓、そば粉、蚕篋、繭、材木等、食糧や雑貨など生活物資の運搬路であった。

白田は野沢宿と高野町宿のあいだ「間の宿」として栄え、南佐久地方における政治や経済の中心地であった。



① 小田切角の道祖神

現在、(株)堀内組敷地内に移転。以前、旧山田質店の所に常夜燈、旧長屋茶店前に御神燈があったという。

② 堂屋敷の大日さん

白田上町に大日如来を刻んだ1.5mばかりの石像があり、万病を治してくれるという。地藏菩薩の説も。この付近から弥勒寺のある所は堂屋敷といって、昔、大きな弥勒寺があった所だという。



③ 元三大師石碑

天台宗第18代座主慈恵大師(比叡山中興の祖)の石碑。

④ 天台宗龍華山弥勒寺(慈覚大師開祖)

毎月20日夜6時よりお大師さんの縁日。寺宝花瓶(県宝)は金銅製。板碑(市有形文化財)は卒塔婆の一種で中央の蓮弁上に阿彌陀三尊、その下に光明真言を梵字で刻む(南佐久地方は板碑地区という)。地獄極楽図(市有形文化財)を毎年1月1日~3日、8月12~16日に展示。4月中旬は松に桜、5月中旬は牡丹の花が見頃。



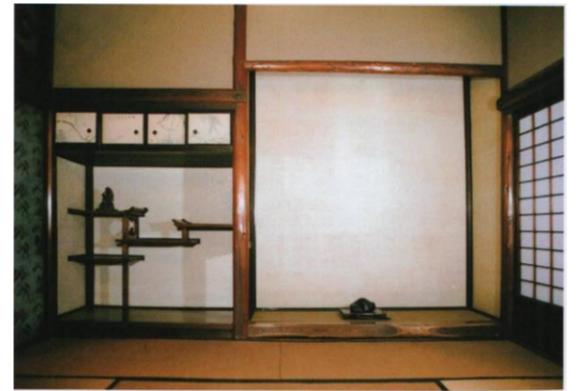
⑤ 「信濃奇勝録」石碑

信濃奇勝録は木版本で本文5巻拾遺1巻。著者は江戸時代末期白田の神官であった佐久の三大郷土史家井出道貞(ほか瀬下敬忠、吉澤好謙)。信濃国全域を十数年の年月をかけ足を運び、実地の見聞を記した地誌。



⑥ 旧井出五郎家

江戸時代初期に名主を勤め、後に代官巡視の際の宿泊所になった旧家。佐久地方では特長があるスズメおどり屋根をつける。客座敷(県宝)は江戸時代中期の書院造、違い棚や欄間に洗練された意匠をみることができる。詩人・小説家島崎藤村の四女、柳子さん嫁ぎ先。



⑦ 曲がった路地



⑧ 双体道祖神



⑨ 浄土宗白田山相沢寺「お面さん」



佐久地方の二代念仏道場(ほかに小諸市平原十念寺)。41面の木彫り仏面(市有形文化財)も保存し、以前、二十五菩薩来迎会の迎講に用いた。仏教楽器の平鉦(市有形文化財)も保存する。



薬師三尊

